

# 組織目標評価報告書（平成27年度）

部局名：

医学部保健学科

部局長名：

竹田 芳弘

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
<b>①教育領域</b>	
<b>①-1 目標</b>	
<p>教育の実施体制の中心である教員数の削減は続いているが、補充可能な教員数の確保に努める。教員の教育力の向上のため、桃太郎フォーラムや専門職種毎の研修会などに積極的に参加し、FD、SDに努める。</p> <p>学士力の向上と教育の効率化を図るため、専攻の壁を取りのぞいた教育体制を作る。各専攻の病院実習は岡山大学病院の看護研究・教育センター、看護部、医療技術部放射線部門・検査部門と連携し、各部門に属する看護師、診療放射線技師、臨床検査技師を臨床教授、臨床准教授、臨床講師に委嘱し、臨地実習教育を行う。</p> <p>教育方法・内容に関しては医学・保健医療系分野(医学部医学科・保健学科、歯学部、薬学部)が連携して、チーム医療演習などの合同学習を実施し、マスクットキューブを積極的に使用してシミュレーターを用いての教育を行う。</p> <p>学習達成度の評価にWeb based testing (WBT)を実施しているが、これを更に発展させる。WBTを臨地実習に出る要件、あるいは進級要件としての基礎専門知識の到達レベルの評価に用いるため、WBT用の問題の集積や、web classを用いての試験システムを構築する。国家試験レベルのWBT(岡山大学版および全国版)を学生が自主学習に活用できるようにe-Learning上に整備する。基礎教育のモデル・コア・カリキュラム策定の準備をする。</p> <p>卒業研究は公開で発表会を行い、記録を残す。</p> <p>シラバスにおける授業科目の位置づけ、到達目標などカリキュラムマップを明確にする。</p> <p>28年度からの60分・4学期制導入に向け、27年度はその準備期間と位置づけ、スムーズな導入を図る。</p> <p>入試方法の改善を目指し、各入試方法毎の志願倍率の動向を調査する。新しい入試方法である国際バカロレア入試を推進する。</p>	<p><b>自己評価</b></p> <p>・28年度からの60分・4学期制導入に向けてカリキュラムの改定を行った。 タグ機能付き映像アノテーションシステムを用いた教材の開発として、講義・演習・実験の映像教材のタグ情報付きアーカイブや映像を利用したグループディスカッションの構築、映像配信による講義・演習・実験のシームレスな学習環境の設定、タグ情報によるシミュレーション演習・実験の客観的評価として双方向(教員・学生)的評価の導入などを進めた。 実習前や実習後におけるOSCE(Objective Structured Clinical Examination)の導入を進めた。 留学や研修を可能とする学期(時間割)を設定することにより、海外留学やインターンシップ、ボランティアプログラムの開発を行った。そして、これらを充実させるために授業科目(Global Practice of the Health Science、Self Development Practice)の設定をした。 従来おこなっていたCBT、WBTを充実させ臨床実習前に行い、基礎専門知識の到達度を評価した。</p> <p>・卒業研究については公開で開催し、論文集作成などにより記録を残した。また、CD作成も行い卒業生に配布した。</p> <p>・国際バカロレア入試として、昨年度に引き続いて行い2名の合格者を選出した。</p>
<b>①-2 目標とする(重要視する)客観的指標</b>	
<p>入試(前期・後期・推薦)の志願倍率。 国際バカロレア入試の志願者数。 看護師、保健師、診療放射線技師、臨床検査技師の国家試験合格率。各専攻の卒業生の就職率。 留年・休学・退学者数。 FD・SDの参加数。</p>	
<b>②研究領域</b>	
<b>②-1 目標</b>	
<p>研究は研究科と一体となり遂行し、科研費、寄附金、委託研究費など外部資金の獲得に努める。</p> <p>科研費については教員全員が申請する。</p> <p>研究の遂行にあたり、医学部共同実験室、鹿田地区動物実験施設など共同利用設備を活用する。</p> <p>研究倫理コンプライアンスの向上を図る。コンプライアンス研修への全員参加を推進する。</p>	<p><b>自己評価</b></p> <p>・保健学科の研究領域については、15保健学研究科にまとめて記した。</p>
<b>②-2 目標とする(重要視する)客観的指標</b>	
コンプライアンス研修への参加者数(全員参加)	
<b>③社会貢献(診療を含む)領域</b>	
<b>③-1 目標</b>	
<p>健康の維持や疾病の予防などヘルスプロモーションに関する公開講座の開催や研修会等を行い、地域社会との交流や地域医療の推進を行う。</p> <p>シーマハサラカム看護大学(タイ)、ミドルセックス大学(英国)との交流は引き続き行い、特に相互交流を推進する。</p> <p>外国人研究者、留学生の受入に努める。</p> <p>高校生向けに「保健学研究科フォーラム」を開催する。金曜日には「保健学科長と語る会」を開催する。</p>	<p><b>自己評価</b></p> <p>・タイのシーマハサラカム看護大学との交流事業として、8月31日～9月3日に本学より派遣(学部生4名と引率教員2名)し、帰国後報告会を開催した。</p> <p>・ミャンマー・ヤンゴン看護大学との交流を進めるために10月には2名の研究生を受け入れた。さらに10月20日に岡山大学病院看護部関係者とともにヤンゴン看護大学学長と交流についての打合せを行い、28年3月には大学間協定締結に向けてヤンゴン看護大学訪問(看護学分野教員3名、大学病院看護部1名、研究センター1名)を行う。</p> <p>・「保健学科長と語る会」については、従来固定した曜日に設定していたが27年度からは高校生の都合と合わせて開催することとした。27年度の参加者は8人であった。</p> <p>・「大学院保健学研究科オープンフォーラム 2015」のテーマは『60分授業・クォーター制導入により学びが変わる』というテーマで27年10月24日に実施した。参加者数は135名で、59名の学外者・高校生の参加があり、多くの質問や討論が活発に行われた。</p>
<b>③-2 目標とする(重要視する)客観的指標</b>	
公開講座の開催回数、参加者数。 「保健学科長と語る会」、「保健学研究科フォーラム」の高校生参加者数。	
<b>【総括記述欄】</b>	
<p>・全体的にみて今年度の目標はおおむね達成できたと考える。次年度は60分制・4学期制に向けて構築したカリキュラム改訂のための授業変更などについての充実化を図る。</p>	